別紙（中間評価書）

平成30年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し番号	3	事　業　区　分　：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
		助成対象団体名：公益財団法人墨田区文化振興財団 施　　設　　名　　：すみだトリフォニーホール

助成対象活動に関する評価

（妥当性）

墨田区が策定した「墨田区文化芸術振興基本条例」及び、「墨田区文化芸術の振興に関する基本指針」を踏まえたすみだトリフォニーホールのミッション、ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業が適正に組み立てられていると認められる。

また、オーケストラが「住む」ホールとして、様々なコンサート、アウトリーチを展開し、実演芸術に触れる機会の創出に努め、あらゆる人々が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を目指しており、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。

（有効性）

目標の達成に向けて、事業が着実に推移していると概ね認められ、アウトカム発現の可能性に期待が持てる。ただし、目標の達成度を測定する方法等については、不明確な部分がある。

（効率性）

事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。

一方、事業費については、概ね適切であったと認められるものの、相当数の活動において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離を生じており、今後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理が望まれる。

（創造性）

墨田区とフランチャイズ提携をしている新日本フィルハーモニー交響楽団を事業の中核に据え、「トン・コープマン・プロジェクト」といった楽団単体では取り組みにくい公演や、区立全小中学校36校、福祉施設等19箇所に対して行った「アウトリーチ・プログラム」などを行っており、先導性が認められる。

また、「トリフォニー・ジュニア・オーケストラ」は、新日本フィルのメンバーをトレーナーに迎え、定期公演をはじめとした演奏会を通して音楽文化を担う人材育成を行っており、とりわけ、車椅子50台、約800人の障害者を迎えた「誰でもコンサート」、「学校コンサート」（アウトリーチ公演）の出演など、活動範囲に広がりを見せ「もう一つのフランチャイズ・オーケストラ」として、積極的にコミュニティ形成や地域活性に資する活動を行っていることは評価でき、新規性・先導性が認められる。

さらには、マックス・リヒターを迎えた「すみだ平和祈念音楽祭」は、クラシッ

ク音楽からコンテンポラリー音楽まで多彩なラインナップで、地域性を意識した国際的な音楽祭としての充実が図られ、その他にも、注目を集めた「テオドール・クルレンツィス＆ムジカ・エテルナ」初来日公演など、多彩なラインナップを揃え、各公演とも高い芸術水準を達成しており、独創性が認められる。

平成３０年度に実施した事業全体で、目標として設定した入場者・参加者数を達成するには至らなかったものの、区が掲げる「音楽都市づくり」の拠点・象徴としてシビックプライドの醸成に寄与しており、国内外での評価の向上につながっていると一定程度認められる。

（持続性）

組織面では、安定的に適正な人員の正規職員を確保しており、専門的な人材育成に努めている。

財務面では、区との密接な関係を基礎とした安定的な財務基盤の確保がなされている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、アウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総　評）

すみだトリフォニーホールの事業計画「文化芸術振興による「すみだ」の地域力向上」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後もすみだトリフォニーホールが持つ地元還元型の企画力、すみだ平和記念音楽祭などの発信力といった自らの強み・特色を活かし、戦略的な事業展開に期待したい。

中間評価結果　　（可否のいずれかに〇を附す）

継続　　可　　否